

## 昔と今 変わるものと変わらないもの

「みのる稲穂に 富士と鳩 愛と平和を 表した…」1951年(昭和26年)選定されたFFJの歌です。岩谷農業クラブ会長はこの歌を皆さんに知ってもらって、歌ってもらおうと昼休みに音楽をかけたがり、壇上で歌ったり、収穫祭の時も開会前に放送したりと努力してきました。このFFJの歌の作詞は全国の若いクラブ員からの応募入選作であり、NHKラジオ番組「音楽の泉」「話の泉」の名解説、名解答者として知られ、慶應義塾の応援歌「若き血」や「蒲田行進曲」の作曲でも知られる、音楽界の堀内敬三先生による作曲で作られたものです。

1948年(昭和23年)に学校農業クラブが農業高校生の自主的・自発的な組織として誕生し、2年後の1950年(昭和25年)には全国組織を作ろうという声上がり、全ての都道府県に連盟が作られました。アメリカの農学校では、学校の教科で学んでことを家庭の農業に実際に適用しながら学ぶ方法(ホームプロジェクト)を採用し、農業科を履修する学生のためにクラブを作りました。これがFFAで、これを参考にしてFFJが結成されました。クラブが発足した当時は、農業経営を目指すクラブ員が、自宅でのホームプロジェクトをよりよく進めるために、地域分会や専門分会が主な活動としていました。その後、学校の農場や施設を使ったスクールプロジェクトが行われるようになり、農業の科目に結びついた専門分会の活動が中心となりました。農業クラブの活動は時代の変化に伴い、地域性を持った様々な活動が生まれました。発足当時は動力耕耘機操作競技や鶏の解体競技など時代を反映した技術競技も行われていたようです。

本県の農業クラブ活動はどうか? 島根県高等学校農業教育50年誌(平成10年2月発行)で発足当時の様子や本校が農業クラブ活動で何を指導してきたかが分かる記載があったので以下に示します。

本県でも昭和25年10月1日県連盟が結成され、初代会長が本校から選出されています。昭和26年7月7日、平田高校で県連総会が開かれ、そのときの参加は次の11単位クラブであった。

邇摩高、邇摩高大代分校、益田高、附属農高(現松江農林高)、附属農高本庄分校、  
矢上高、横田高、出雲産高、安来高、川本高、平田高

昭和30年代に本校の前身である附属農高が国の研究指定校となり、「学校農業クラブの指導目標」等を定めている。

学校農業クラブの指導目標(技能)

(話すこと 聞くこと)

- 1 大勢の人の前で農業の問題について話すことができること
- 2 農業の問題について他人の意見をよく理解して、これを自分の意見と同じ点や違う点を明らかにし正しい判断を下すことができる。

(調べること 広めること)

- 3 グループ活動によって農業に関する研究調査ができること
- 4 グループ活動によって農業改良や生活改善に寄与することができる

(議事法)

- 5 議事法によって正しい会議を進めることができる

(理解と協力)

- 6 自分や他人の特徴を理解し、お互いに協力し合って仕事を進めることができる

(催しの運営)

- 7 品評会、即売会、研究会、農業技術の公開や見学などの催しの中心となって運営することができる

こうしてみると、発足当時から農業クラブ加盟校は大きく減り、学校名も変わり時代の流れを感じますが、農業クラブ活動をとおして育てたい力はあまり変わっていないような気がします。今から60年以上も前の松江農林高校の学校農業クラブの指導目標がそのまま使えそうです。

農業クラブが結成されて70年近くが経過し、農業界や社会が農業高校に求めるものは少しずつ変化してきていますが、農業高校で農業クラブ活動をとおして身につけたい力である人間力は、昔も今も変わらないのでしょう。